

## ■ 議題

---

今回の番組審議委員会は、4月5日（月）午前10時より放送の『ヒッツ・デイリー・エクスプレス』にてデビューした服部和子ナビゲーターの「初日のオープニングトーク」と、同じく服部和子ナビゲーターの『ヒッツ・デイリー・エクスプレス』デビュー約1ヵ月後の5月17日（月）午前11時30分過ぎの「フリートーク」、それに新コーナー「初めての中国語<sup>※1</sup>」の4月8日（木）放送分、5月6日（木）放送分、5月7日（金）放送分を聴取して審議に入った。

### ※1「初めての中国語」

コーナー内容： 高山市役所海外戦略課の職員と、香港出身で高山市観光案内所の観光ガイド「ボニー」さんによる中国語を学ぶコーナー。基本的な単語や日常で使えるようなフレーズを覚えていく。

放送日： 毎週木曜日・金曜日 午前8時25分～

（再放送）木曜日・金曜日 午後4時55分頃～と、  
2日後の日曜日 午後2時30分～2回（木・金）分を放送

## ■ 審議内容

---

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、聴取した内容についてでもよいし、普段聴いている放送についてでもよいので、順次、意見をお願いしたい。

石原委員： 「服部ナビゲーターのトーク」について、新人でナビゲーターの経験も無いので、初日のトークは、テンポが遅くゆっくりとしゃべっている印象だったが、約1ヵ月後のトークでは、初回と比較するとテンポがよくなったと思う。しかし、内容が花や景色の話だったため、単調で個人的には興味が湧かなかった。また、しゃべりに抑揚が無かった。

「初めての中国語」については、自己紹介の所で「高山市に長く住んでいる外国人が感じる高山や日本のよい所」が聴けたのでよかったと思う。中国語と言いながら、中国語を教える「ワード」が少ないような気がして、フリートークの中にも中国語を自然に入れたらどうかと思った。また、単語を増やすのもよいと思った？

大萱委員長：服部ナビゲーターは新人なので仕方がないが、訓練、研修などしたのか？

会社側：4月のデビューに間に合うように研修をした。

大萱委員長：デビュー時のトークと1ヵ月後のトークを比較すると、よくなった印象だ。

太田委員：「服部ナビゲーターのトーク」について、デビュー当日のトークは原稿を読んでいる感じだったが、1ヵ月後のトークでは滑らかになってきて、もう少し経つと更に聴きやすくなると思う。しかし、花や景色の話が多く、イメージが湧かなかった。

「初めての中国語」については、興味のある方にはこのような内容でもよいかと思うが、初心者にもわかるような内容で進めれば、より多くのリスナーに聴いてもらえるのではないかと思った。

大萱委員長：服部ナビゲーターは新人なので、これから期待したいと思う。

村田委員：「服部ナビゲーターのトーク」について、声は心地よい感じがして「性格もよさそうな人」と思った。ただ、他の委員と同じ意見で、話に抑揚が無く「びっくりした」ことや「楽しかった」ことが伝わりにくいと思った。服部ナビゲーターは大阪府の出身なので、自分の生まれた育った言葉（関西弁）を所々に入れば、さらに気軽にしゃべれるのではないかと思った。

「初めての中国語」については、高山市役所の職員が出演してしゃべっているので「素人が作っている」感じがして申し訳ないと思う。（村田委員は高山市役所職員）初回の放送分を聴くと、進行役の大上さん（高山市役所職員）は会話の途中で被せてくるし、2回目、3回目の放送を進行している三木さん（高山市役所職員）は、原稿を読んでいるだけなのが少し気になった。この辺りは指導して頂きたいと思う。コーナーの尺が短いと思うので「自己紹介」や「海外戦略課ホームページの紹介」は、毎回言わなくてもよいと思う。コーナー本編の時間を有効に使った方がよいと思う。

大萱委員長：服部ナビゲーターは大阪府出身で、幼少期に関西に住んでいた話をしてきたから、関西弁やイントネーションが違う感じで喋るのかなと思ったが、まったく関西弁で喋っていない。番組の為に矯正をしたのか？

会社側：確かに関西弁で喋っていない。矯正については確認を試みる。

大萱委員長：たまには関西弁が入ってもよいと思う。

「初めての中国語」については台本が無い感じのやりとりでおもしろいと思った。三木さんのことも知っていて、まじめな人なので「らしさが出ているな」と、村田委員の意見に同感した。行政情報を放送するのではないので、もう少しアイデアがあるとよいと思う。

松川委員：「服部ナビゲーターのトーク」について、初めてということで、丁寧な自己紹介をされていて「人となり」もわかったし、語り口調も優しく、村田委員と同じく「いい人」な感じが伝わってきた。2つのフリートークを聴き比べて感じたことは、スムーズに語り掛けていてよかったと思う。ただ内容が二転三転していたので「今日はこのような話をします」と、最初に紹介するとよいと思った。

「初めての中国語」は、2回目の放送時、前回の復習をすることは非常によかった。ところで、中国語の番組は、週に何回放送しているのか？また、英語の番組は今もやっているのか？

会社側：英語の番組は、毎週月曜日から水曜日に放送している。木曜日、金曜日が、この中国語の放送となる。基本的には1回で完結する流れだが、聴取したのは2日間で完結する内容だったので、木曜日、金曜日続けて放送した。なお、次の週からは、別の単語を紹介する流れだ。

松川委員：中国語は発音が難しいので、ラジオの音声のみで「練習しましょう」と言われても厳しい気がする。提案としては、市役所にテキストのようなものが置いてあると見ながら聴けるから、練習ができるような気がした。

会社側：聴取した内容では告知して無いが、中国語に関しては、過去のものになるが「音声とテキストを市役所のホームページに載せている」ことや「興味のある方はご覧下さい」など、現在、番組の最後で紹介している。

松川委員：過去のものではなく、現在のものなら、テキストを見ながら耳で聴いて予習ができて、後日、再放送時にさらに復習ができてよいのかなと思った。

大萱委員長：やはり中国語は発音が難しいので、ただ聴いているだけではわからないと思う。また、いいアイデアがあればと思う。

高島委員：所用で会議に遅れて申し訳ない。

「初めての中国語」から聴取したのだが他の委員と同じで、ヒアリングだけでは、何と言っているのかよくわからないが、会社側の回答で「音声とテキストを市役所のホームページに載せている」と言っていたので安心した。

高原委員：2つの聴取した内容に対する意見ではないが、ヒッツ FM のナビゲーターが、お問い合わせの「電話番号」「FAX 番号」「ホームページ」や「メールアドレス」を紹介することがよくあると思うが、その中の「アドレス」が長く、聴いていてもよくわからないことがあった。もっとわかりやすい言いかたがあるとよいと思った。

それと、以前シリーズもので、前回の続きで「片付け」についての話題を紹介していたが、前回の内容を聴いていない為「何についての片付けなのか」わからないことがあった。なので、前回のあらすじを紹介してから、今回の内容を紹介して欲しいと思った。

今、聴取したものについては「服部ナビゲーターのトーク」で、丹生川の北方（高山市丹生川町北方地内）にある「芍薬」の話が出ていたが、少し外れの地区なので、どのあたりか明確にわからなかった。また「しょうしゅうじ」（寺の名前）と言っていたが、あの寺は「しょうそうじ」（正宗寺）と言うお寺で、地名や名称など、いろいろな言い方をするものに対しては、事前に調べてから紹介したほうがよいと思う。服部ナビゲーターはまだ新人なので、周り（スタッフ）のサポートも必要だと思う。

「初めての中国語」は、勉強するというよりも「中国語になじむ」といったきっかけづくりの1つなので「親しみのある番組構成」なのかなと感じた。余談だが、ボニーさん（中国語を紹介している方、香港出身）とは、一緒に仕事をしているが（高原委員は飛騨高山コンベンション協会の職員）、少し前に日本国籍を取得した。今後もこのような番組を続けて欲しいと思う。

大萱委員長：地名、名称については、事前に確認して紹介して欲しいと思う。思い出したが、放送開始時、地名の紹介で「高山市なだまち」（名田町）と言っていたが、市民は「なだちょう」と言っている。正式は「なだまち」だが、番組審議委員会でも議論になったけど「市民になじみのある言い方でもよいのではないか」という意見もあった。しかし、決定的に違う言い方はよくないので、少しでも疑問に感じたらしっかり調べてから紹介して欲しいと思う。

大萱委員長：「初めての中国語」については、中国語の「入り口」という考えもありかなと思った。この番組は3分位の尺だが、その位の時間内で勉強するのは難しいが、人の心や興味を向かせることが出てくると、より一層番組としてよくなるのかなと思う。

原委員：「服部ナビゲーター」については、初日のトークと、1ヵ月が過ぎてからのトークでは、やはり2回目の方が慣れたしゃべり方だと思った。話の内容は、服部ナビゲーター自身「主婦」ということもあり、主婦感覚で生活感のある内容だし、庶民的で「そうなんだな」と想像できる内容だと思う。まだ新人だし、これから少しずつ経験を積みながら成長していくのかなと感じた。これから期待していきたいと思う。

「初めての中国語」についてだが、中国語の番組に限らず、職員の方が進行役の番組は、どうしても少し早口になってしまう。時間の関係上、そうなってしまうのかもしれないが、早口になると、どうしてもヒッツFMのナビゲーターに比べて、活舌が悪い分、聞きにくいことがある。耳で聴く講座なので、もう少しゆっくり紹介したほうが、わかりやすいと思った。初歩的な番組だし、興味もある方は本格的にやると思うので、先ほどの意見にもあったが、この番組を「きっかけづくり」の一貫として進めてもらうとよいのではないかと思う。それと中国語は非常に難しいので、例えば「つ」に小さい「い」と言うとか、それを伸ばす言い方をするとか、丁寧に言ってもらうだけで、頭の中でヒントが出て発音しやすくなるのかなと思った。

聴取以外のことでは、先ほど「地名」のことが意見にあったが、地元に住んでいる者にとって、地名の間違いはどうしても引っかけってしまう。間違いは仕方がないので、早めに訂正するようにしてほしいと思う。また、イントネーションも怪しいことがあるから、イントネーションも気を付けてほしいと思う。

松川委員：地名のことで聞きたいのだが「ふいとう」（冬頭町）はその言い方でいいのか？ナビゲーターは「ふゆとう」と言っている。市民は「ふいとう」とか「ふいと」と言っている人が多いと思う。そのあたりはどうなのか？

会社側：条例上、正式には「ふゆとう」になっていると思う。

原委員：条例と通称の言い方では、普段、耳で聴いているから、自分たちが慣れ親しんでいる通称の呼び方で言わないとわからないと思う。また、〇〇町の町は「まち」と読む場合と「ちょう」と読む場合があるが、例えば「末広町」は「すえひろちょう」と言っているが、正式には「すえひろまち」だそう。高山市は「ちょう」と「まち」がごちゃ混ぜになっている。

大萱委員長：飲み屋街の「朝日町」は「あさひまち」で、もう1つの朝日町（旧朝日村）は「あさひちょう」と言っている。

原委員：先ほども言ったが、高山市の正式な呼び名では違和感があると思う。

会社側：道路の地名についても違いがあるし、このことについては、第1回の番組審議委員会から言われていることだった。

大萱委員長：思い出したが、以前、高山市議会で初日を「しょにち」ではなく「しょじつ」と言っていた。しかし、聴いている側はわからないので、今は「しょにち」と言っているようだが…。また、選挙で「期日前投票」は「きじつぜんとうひょう」と言っているが、自分たちが若いころは「きじつまえとうひょう」と言っていた。

会社側：高山市選挙管理委員会では「きじつまえとうひょう」に直して紹介しているが、岐阜県選挙管理委員会では「きじつぜんとうひょう」と紹介している。

大萱委員長：そのような番組を作ってみたらどうか？高山市の担当の方と対談したり…。どうなのか？

会社側：検討したいと思う。

大萱委員長：難しいと思うが、放置しておくのもどうかと思うので、何かよいアイデアがあるとよいと思う。番組を作って取り上げるのもよいと思う。

会社側：貴重な意見を頂き感謝している。番組向上に繋げていきたい。

■ 審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

---

令和3年5月25日（火） 番組審議委員会の席上で説明

■ その他の参考事項

---

次回開催日 令和3年7月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）